特集

産婦人科

■産科医長　多田　克彦・産科医長　熊澤　一真

当院は2005年４月１日より総合周産期母子医療センターに指定され、今年で約20年になります。岡山県では総合周産期センターとして倉敷中央病院と当院の２施設が指定され、地域周産期母子医療センターに指定されている岡山大学病院、岡山赤十字病院、川崎医療大学附属病院、津山中央病院の４施設と協力して、県内のハイリスク妊娠・分娩をカバーしています。

総合周産期母子医療センター

総合周産期母子医療センターは、産科（母体・胎児部門）および新生児科・小児外科（新生児部門）を中心として構成され、その他の専門科の協力を得て、母体や胎児に合併症を持つ妊婦さんを妊娠中から産後まで、赤ちゃんを胎児期から新生児期まで一貫してケアしています。当科には５名の母体・胎児専門医（日本周産期・新生児医学会認定）が在籍し、専門医を中心にセンター内では医師、助産師、看護師、臨床心理士や他のコメディカルの協力も得ながら、患者さんの治療にあたらせていただいています。また患者さんだけではなく、母子を中心とした家庭ごとサポートできるようチーム医療を実践しています。

2022年日本の出生数は80万件を下回り、政府は「異次元の少子化対策」を表明するほど、日本の出生数の減少傾向は加速しています。当院も分娩件数は2008年の730件をピークに減少傾向を認めており、特に新型コロナウイルス感染症流行前に比べて新型コロナウイルス感染症流行中は約30％の減少を認めています。しかし、他施設からの母体搬送件数は年間約100件前後、外来紹介件数は年間約370件と減少はわずかです。当院に通院される妊産婦さんの診療や保健指導を行う他、岡山県内全域からの産科救急母体搬送の受け入れを24時間体制で対応し、リスクの高い妊婦に対する周産期管理を行なっています。また、当科では、妊娠中からの母乳育児のサポートや母子同室に力を入れており、合併症のない健康な妊婦さん、里帰り出産をご希望される方も積極的に受け入れております。ローリスク妊娠に加えて母児に合併症のあるさまざまなハイリスク妊娠を取り扱っており、１年間の早産例は約120件、多胎妊娠の分娩は約40～50件です。

専門外来として、「多胎外来」（毎週火・水・金曜午後）、「出生前診断外来」（毎週月・木曜日午前）、「妊娠と薬外来」（適宜相談）を開設しています。

赤ちゃんにやさしい病院（BFH：Baby Friendly Hospital）

旧国立病院時代、1991年にWHOユニセフより先進国で初めて「赤ちゃんにやさしい病院」に認定されました。私たちの病院では、母乳育児を中心として母子の幸せ、家族の幸せのために様々な取り組みをしています。

＊分娩直後の早期接触と母子同室

生まれて間もない赤ちゃんとお母さんにとって肌と肌の触れ合いはとても大切な時間です、出生直後の赤ちゃんは状態が安定しないこともあるので、呼吸状態や体温に注意し、スタッフが安全に十分に配慮した上で行なっています。帝王切開でもご希望に合わせて手術室で早期接触を行なっています。

多胎外来

双胎妊娠は、悪阻、早産、妊娠高血圧症、子宮内胎児発育不全、胎児形態異常などの合併症が単胎妊娠よりおこりやすいことがわかっているハイリスク妊娠です。さらに一絨毛膜二羊膜性双胎（MD双胎）では双胎間輸血症候群（TTTS）なども発症する可能性があります。特に早産は多胎妊娠で頻度が高く（全国平均約50％）、児の予後にも関わる合併症です。

当科では年間40～50件の双胎妊娠の管理を行なっています。「多胎外来」では多胎妊娠に伴う母児の合併症を最小限にするため、通常の妊婦健診より頻回に外来診察をし、１回の診療にも十分な時間を確保しています。また妊婦さん自身がハイリスク妊娠であることの認識をさらに高めていただく目的で、多胎妊娠に関するパンフレットを作成し、気になる症状が診察時以外でもないか注意していただくように指導させていただいています。実際「多胎外来」開設後は当院での双胎早産率は38.8％と全国平均よりも低く、さらに開設前よりも低くなっています。

出生前診断外来

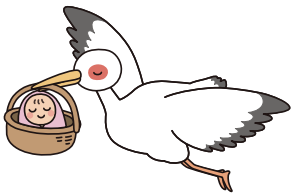
当院は2022年７月に日本医学会の出生前検査認証制度等運営委員会からNIPT（非侵襲性出生前遺伝学的検査）の基幹施設として認証され、同時に「出生前診断外来」を開設しました。外来ではNIPTだけではなく、赤ちゃん（胎児）の異常の有無を調べるための検査である超音波検査、染色体検査（羊水検査）なども行っています。ご夫婦が検査についてしっかりと理解され、赤ちゃんに持つ不安が軽減できるように、必ずカウンセリングを行なっています。カウンセリングは原則としてご夫婦で（またはパートナーと一緒に）受けていただき、十分な時間をとらせていただいています。これまでの約１年間で出生前遺伝カウンセリング37件、NIPT19件実施しています。

妊娠と薬外来

「妊娠と薬外来」は「妊娠と薬情報センター」（国立成育医療センター内）と連携して、妊娠・授乳中の薬剤使用に関する相談を随時受け付けています。妊娠判明後の相談だけでなく、これから妊娠を考えており、現在使用している薬が赤ちゃんに影響を与えないかどうか不安をかかえている患者さんの相談にも対応しています。当院の産科および新生児科医師と薬剤師が対応に当たっています。

婦人科疾患　　婦人科医長　政廣 聡子

婦人科は、非妊娠期の女性の診療を担当しており、「女性骨盤外科」と「女性内科」の２つの役割を持った診療科です。「女性骨盤外科」として代表的な疾患である子宮筋腫、子宮腺筋症、卵巣嚢腫等の開腹手術による治療はもとより、卵巣嚢腫や子宮内膜症、子宮外妊娠に対する腹腔鏡、子宮粘膜下筋腫、子宮内膜ポリープに対する子宮鏡手術、子宮頸部上皮内病変、子宮脱に対する膣式手術を行なっております。なお前癌病変、早期癌の治療は行なっておりますが、進行癌につきましては、原則として近隣の専門病院を紹介しております。また、「女性内科」として婦人科で診療する疾患は多岐にわたります。月経異常や更年期の体調不良、性感染症など、人には相談しにくい症状で受診された患者さんに少しでも安心して診察を受けていただけるよう診療にあたることを心掛けております、思春期の女性から閉経後のご婦人まで、特に月経に関するお悩みをお持ちでしたらお気軽に婦人科へお越し下さい。

メンバー紹介

多田　克彦（産科医長）
熊澤　一真（産科医長）
政廣　聡子（婦人科医長）
沖本　直輝（産科医師）
塚原　紗耶（産科医師）
吉田　瑞穂（産科医師）
大岡　尚美（産科医師）
甲斐　憲治（産科医師）
福武　功志朗（専攻医）